



鳥栖市と小城市の地域交流活動

お年寄りに外出の機会を

外出する機会が減りがちなおじいちゃんたちと交流しよう21日、鳥栖市の鳥栖まちづくり推進センターに「おじいちゃん食堂」が初めての実験。

食堂が明渡し、児童がカレーを作って振る舞った。市内には子ども向けの「子ども食堂」はすでにあるが、「おじいちゃん食堂」は初めての試み。



カレーを食べながらおしゃべりを楽しむ高齢者と児童＝鳥栖まちづくり推進センターの「おじいちゃん食堂」



カレールーを入れて味付けする児童＝鳥栖まちづくり推進センター

鳥栖におじいちゃん食堂

◎記事から読み取ろう

○それぞれのねらいはどんなことですか。

鳥栖市

小城市

児童、手作りカレー振る舞う

2015年国勢調査によると、市内の65歳以上の人口は1万2200人で総人口の22.2%となっている。

「何を食べているの？」と、おじいちゃんたちは「カレーが好きだよ」と答えてくれた。おじいちゃん食堂は、おじいちゃんたちが好きなカレーを、おじいちゃん食堂が提供する。

同まちづくりセンターの主催、近頃の小学生もボランティアの女性の手助けを受けながら、ジャガイモをむき、ニンジンと切ったりして三つの鍋でカレー約50人分を作った。

◎広げよう・深めよう

○参加した人の感想からどんな気持ちが想像できますか。

・鳥栖市の大倉さん（ ）

「
」と
言っているところから

憩いの場になっている店舗で宿題をしたり、友だちと会話を楽しんだりする子どもたち＝小城市牛津町



小城市牛津町の住民有志でつくるまちづくり組織が発足し、活動を開始した。中心部の再開発を進める市と連携し、少年高齢化が進む町の子もやお年寄りの居場所づくりに取り組む。第1弾として20日から2日間、夏休みの宿題に励む小学生のために空き店舗を開放、地域の大人たちが親や先生の代わりに子どもたちを見守った。

牛津町にまちづくり組織

地域の居場所づくりへ

組織は商業施設ゼリオを社の事務所として、那珂津町の第三セクターの牛津町に事務所を設け、市民の憩いの場として開放し、老人会例社長の部会の一つで、6月、会などでも利用されている。本年度は家賃や事務員の人件費が約15万円に17人で立ち上げた。商店主や元会社員、PTA役員らが名を連ね、代表を務める。森山製菓所長の森山真澄さん(52)は、課題となっている空き店舗や空き家の活用策もみながら、川小の児童約30人が宿題や工作に励んだ。牛津小6年の平河唯さん(12)は、デレがなくなると家より集って高齡化社会に対応するた

め市は本年度、住宅や商店を近くに集め、暮らしやすさを向上させる再開発事業を、まちづくり組織のメンバーも務める本村初穂さん(63)は「子どもたちの笑顔が元気の源。高齢者の引きこもり対策など、やりたこととはたくさんあるが、背伸びをせず、長く続けられる活動を心掛けていきたい」と話す。

少年高齢化、空き店舗対策

という気持ちが想像できる。

・小城市の平河さん（ ）

「
」と
言っているところから

という気持ちが想像できる。

◎自分の考えをまとめよう * 友だちと意見交換したり、家族と話し合ったりしよう

○ それぞれの取り組みの特徴（すぐれているところ）をあげ、身近な地域にあてはめて考えてみよう。